

15. 工学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況	41)
(分析項目Ⅱ 教育成果の状況	42)

分析項目 I 教育活動の状況**〔判定〕 高い質にある****〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

平成 28 年度から実施している特色入試を、平成 30 年度からは当初の 4 学科から 6 学科全てに拡張して実施し、これまでに 59 名が入学している。また、日本人学生の英語コミュニケーション能力の向上を目的として、平成 28 年度から実践的英語講座のキャンパス内開講制度を導入し、これまでに延べ 248 名の学生が受講している。

〔優れた点〕

- 平成 28 年度から実施している特色入試（志願者の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する京都大学独自の選抜方式）は当初 4 学科（地球工学科、電気電子工学科、情報学科、工業化学科）で実施したが、平成 30 年度からは 6 学科すべてで実施しており、これまで 59 名が入学している。

〔特色ある点〕

- 高専編入試では既修得単位の認定に配慮しつつも平成 24 年度に編入年次を 3 年次から 2 年次に変更した。
- 平成 26 年度からは高大接続の取り組みとして科学技術振興機構「グローバルサイエンスキャンパス（GSC）」『科学体系と創造性がクロスする知的卓越人材育成プログラム（ELCAS）』を 12 都府県市の教育委員会と連携して開始し、「基盤コース」、「専修コース」、「国際コース」を設けて高校生を受け入れ、講義・実習・演習や 1 対 1 の対話型教育指導等を実施している。現在は科学技術振興機構のプログラムは終了しているが、京都大学独自の予算で ELCAS を継続している。
- 平成 29 年度からスタートさせた留学生向け入試 Kyoto iUP や外国人留学生のための特別選抜入試などの多様な選抜と、外国人常勤教員の増強により、教育環境の国際化を図るとともに、平成 28 年度から実践的英語講座のキャンパス内開講制度（QUEST）を導入して日本人学生の英語コミュニケーション能力の向上を図っており、これまでに延べ 248 名が受講している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- アンケート結果は、新工学教育実施専門委員会において検討し、各学科での講義内容・手法の改善に活用している。